



サハリン樺太史研究会  
2018 年度活動報告書

2019 年 8 月 31 日  
サハリン樺太史研究会

# —2018 年度活動報告書—

## 目次

会長あいさつ

活動概要

例会・関連シンポジウム等

研究成果刊行物（付:参考資料 非会員による研究成果刊行物）

研究プロジェクト（付:参考資料 非会員による研究プロジェクト）

サハリン樺太史研究会会則・役員

## 報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。年度活動報告書も 2008 年度分から刊行し、2018 年度活動報告書は 11 冊目の年度活動報告書となる。

2011 年度分以降、参考資料として非会員の研究動向も日本国内限定ではあるものの掲載することとした。このことによって、日本国内のサハリン樺太史研究全体における本会の位置がより明確になろうし、また本報告書によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと編者として願う。

なお、本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ることをことわっておく。また、会員については本報告書編集時点で本会のメンバーリストに登録している者を指しており、当時は未会員であった場合もあることはご了承ください。

本報告書の 2017 年度版までに掲載された文献については、下記より検索可能であり、一部ではあるが英文書誌情報や要旨なども閲覧可能である。2018 年度分以降も随時掲載していく予定である。本報告書各年度版と合わせて、サハリン樺太史研究の動向を知るために役立てば幸いである。

サハリン/樺太史研究文献 DB

[http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000311karafutoHIS2](http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000311karafutoHIS2)

2019 年 8 月 31 日

中山大将

(サハリン樺太史研究会世話人兼公式HP運営担当者)

## —会長あいさつ—

サハリン・樺太は、前近代においては先住民を担い手とした、大陸側から千島列島にいたる海を介した交易ルートの一環であり、近代には日本とロシアの接触地域をなし、両国間で何度も国境線の引き直しと大規模な人口移動が繰り返された特異な歴史を有する島です。

この島の呼称も、幕末までは「北蝦夷地」とよばれ、明治初年から「樺太」とよばれるようになり、全島ロシア領有に変わると「薩哈噠」の3文字が当てられました。日露戦争後の北緯 50 度以南日本領有により、ふたたび「樺太」となり、第二次世界大戦後はサハリンと呼ぶことが一般的となりました。

近年、この島に改めて歴史研究の光を当て、この島の住民が幾世代にも亘って関わった歴史的経験を捉え直そうとする機運が日本、ロシア双方で高まりつつあります。また、日本とロシアとの研究交流は、今世紀に入り、活発に行われるようになりました。たとえば、北海道大学スラブ研究センターとサハリン大学を拠点として、「ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア」第 5 回研究会「サハリン・樺太の歴史」(2004 年 7 月 29 日～30 日)、同第 11 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅰ)」(2005 年 9 月 21 日)、同第 13 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅱ)」(2005 年 12 月 3 日)、「日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史」(2005 年 11 月 1 日～2 日、2006 年 2 月 16 日～17 日)、「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」(2008 年 5 月 6 日～7 日)と幾度も研究会が開催されてきました。そして 2008 年の「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」開催後に、シンポジウム参加者を中心に 2008 年 7 月、サハリン・樺太史研究会が発足しました(初代会長：原暉之北海道大学名誉教授)。

サハリン・樺太史研究会は、これまでの樺太史・サハリン史研究が日本、ロシアにおいて、それぞれ別個に行われてきたことを踏まえ、双方の研究成果を学ぶとともに双方の研究成果の交流、資料保存情報の交流などの研究交流を進め、「一國史」ととらわれないサハリン・樺太史を描くことを目標としています。

本会は札幌を拠点として研究会、シンポジウムを定期的に(年間 5 回程度)開催しております。これら研究会、シンポジウムは参加自由で、どなたでも参加できます。サハリン・樺太史の研究に関心をお持ちの方は、本会事務局にお知らせいただけましたら、案内メールを差し上げます。

2013 年 12 月 17 日

サハリン樺太史研究会会長 白木沢旭児(北海道大学大学院文学研究科教授)

## —活動概要—

### 10 周年国際シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」

2018 年で本会は活動開始 10 周年を迎えた。10 周年記念事業として、国際シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」を開催、ロシアと韓国からも研究者を招き、日本語、ロシア語、韓国語、英語、中国語の各国語でのサハリン樺太史研究の動向が確認された。

### 樺太〈戦後〉史研究

2016 年に本会で行なわれた「樺太の〈戦後〉史研究の到達点と課題」の報告要旨集が『北海道・東北史研究』第 11 号に掲載された。また、今年度も 3 月に「引揚者在外事実調査票研究：樺太引揚者を戦後日本に位置付ける」を開催し、「引揚者在外事実調査票」を用いた研究の成果と活用の可能性が議論された。また、パイチャゼ・スヴェトラナなどによりサハリン残留帰国・帰国者に関する研究も発表され続けている。そうした中で、中山大將が 10 年近い研究の成果として『サハリン残留日本人と戦後日本』（国際書院）を刊行し、サハリン残留日本人問題をめぐるとの通史が提示されることとなった。

### 樺太戦の戦史研究

藤村建雄『知られざる本土決戦南樺太終戦史：日本領南樺太十七日間の戦争』（潮書房光人社）の書評会が第 48 回例会で行なわれ、11 月には藤村建雄『証言・南樺太 最後の十七日間：知られざる本土決戦 悲劇の記憶』が上梓された。また、『北方人文研究』12 号には、昨年度開催の第 45 回例会のニコライ・ヴィシュネフスキー報告「知取協定と樺太における戦争の終結」の翻訳（小山内道子）が掲載された。〈戦後〉史研究同様に研究の薄かった樺太戦の戦史研究の厚みが増すようになってきた。

### 樺太・台湾の比較研究

日本帝国植民地として樺太と台湾を比較した研究書として楊素霞『北海道と殖民地台湾・樺太との行財政的関係を軸として（1895～1914）』が台湾で刊行されたほか、日本でも中山大將「台湾と樺太における日本帝国外地農業試験研究機関の比較研究」が発表されるなど比較研究が進み始めた。

### サハリン／樺太史研究 DB（データベース）(<https://nakayamataisho.wordpress.com/borderlandsdb/sakhalinkarafutodb/>)

大規模予算 DB ではなく、各研究者が手持ちの資料目録などを持ち寄ってネット上で公開していく「サハリン／樺太史研究 DB」の活動が始動し、現在は、「樺太日日新聞 DB」各編、「サハリン／樺太史研究文献 DB」、「樺太地理情報 DB」が公開中である。

### ソ連占領初期南サハリン史料勉強会

兔内勇津流会員が主催するソ連占領初期のソ連公文書の勉強会は、引き続き活動を続けている。

（2018 年度末会員数：108 名）

## —例会・関連シンポジウム等—

### ■ 第 48 回例会

日時:2018 年 5 月 12 日

場所:北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W201 室

書評 藤村建雄著『知られざる本土決戦南樺太終戦史:日本領南樺太十七日間の戦争』

(潮書房光人社、2017 年)

評者 白木沢旭兎(北海道大学)

鈴木仁(北海道大学大学院)

総会

### ■ 第 49 回例会

日時:2019 年 6 月 23 日

場所:北海道大学文系 6 番教室

報告 米国 Lend-Lease 武器貸与法とソ連の千島上陸作戦

:米ソ間の Project Zebra, Operation Milepost, Project Hula 概要 …佐々木洋(札幌学院大学名誉教授)

報告 第二次世界大戦期の千島列島の日本軍 ……………黒岩幸子(岩手県立大学)

共催:NPO法人ロシア極東研

### ■ 第 50 回例会

日時:2018 年 9 月 15 日

場所:北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター大会議室

報告 幕末にカラフトを調査した人々 ……………高木崇世芝

報告 Karafuto Repatriates and the Work of the Hakodate Regional Repatriation Centre, 1945-50

(1945-50 年における樺太引揚者と函館引揚援護局の活動について)……………

…………… Jonathan Bull(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)

共催 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

第 51 回例会

日時:2018 年 10 月 13 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W202

書評 今西一・飯塚一幸編『帝国日本の移動と動員』(大阪大学出版会、2018 年)

評者 白木沢旭兎(北海道大学)

中山大将(京都大学)

司会:池田裕子(東海大学札幌キャンパス)

共催:科学研究費補助金基盤研究(A)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」

第 52 回例会 サハリン樺太史研究会 10 周年シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」

日時:2018 年 12 月 1 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W202

- 報告 1 日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向:1264-1867 ..... 東俊佑(北海道博物館)
- 報告 2 日本における近代サハリン・樺太史研究の動向 その1..... 竹野学(北海学園大学)
- 報告 3 日本における近代サハリン・樺太史研究の動向 その2..... 池田裕子(東海大学札幌キャンパス)
- 報告 4 Основные направления изучения истории Сахалина и Курильских островов в России в  
постсоветский период (ポストソ連期ロシアにおけるサハリンおよびクリルの主要な歴史研究) .....  
..... デイン・ユリア(サハリン州郷土博物館)
- 報告 5 韓国におけるサハリン関連調査及び研究動向 ..... 韓恵仁(成均館大学)
- 報告 6 Recent work in the English language historiography of Sakhalin/Karafuto.....  
..... ジョナサン・ブル(北海道大学)
- 報告 7 中国語圏におけるサハリン樺太史研究:庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地 .....  
..... 中山大将(京都大学)
- 報告 8 サハリン／樺太史研究 DB(データベース)について:個人作成資料目録の統合と活用 .....  
..... 中山大将(京都大学)

共催 科学研究費補助金基盤研究(A)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」

学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究)「境界地域史への地域情報学活用

:サハリン島ミクロ歴史情報データベースの構築と応用」

■ 第 53 回例会

日時:2019 年 3 月 2 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W202

報告 1 第二次世界大戦後における引揚者の職業体験:茨城県、神奈川県、広島県の引揚者在外事実調査票分析  
.....西崎純代(立命館大学)

報告 2 引揚者在外事実調査票の分析にみる樺太大泊町の引揚げ ..... 木村由美(北海道大学)

討論者 ジョナサン・ブル(北海道大学)

竹野学(北海商科大学)

スティーブン・アイビングス(京都大学)

司会:中山大将(京都大学)

共催:

学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究)「境界地域史への地域情報学活用

:サハリン島マイクロ歴史情報データベースの構築と応用」

科学研究費補助金(基盤研究 B)「欧州・北東アジア境界変動地域での住民間葛藤と相互作用に関わる社会的力  
学の解明」

北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

## —研究成果刊行物—

(五十音順)

池田裕子 ..... 教育史

### 【定期刊行物】

池田裕子「樺太の小学校における労作教育実践：郷土教育運動との関連に注目して」『東海大学国際文化学部紀要』11号、2019年3月。

板橋政樹 ..... サハリン史

### 【定期刊行物】

板橋政樹「本会 11 月研究会の報告要旨 1905 年 7 月、サハリン島ヴラディミロフカ占領と義勇兵・住民の虐殺：「山本大尉作業」の分析を中心に」『ポストーク』36号、2019年1月。

大熊智之 ..... 移植民教育史

### 【定期刊行物】

大熊智之「書評 中山大将著『亜寒帯植民地樺太の移民社会形成：周縁的ナショナル・アイデンティティと植民地イデオロギー』」『移民研究年報』24号、2018年6月。

大藤寛之 ..... 労働史

### 【定期刊行物】

大藤寛之「樺太の土工部屋についての一考察」『道歴年報』19号、2018年9月。

小山内道子 ..... 翻訳家

### 【定期刊行物】

グリゴーリイ・スメカーロフ(小山内道子構成・翻訳)「1925 年北サハリンから脱出したペトロフスキー一家の軌跡：少年時代の思い出と第 2 次世界大戦で日本軍の捕虜になって」『函館日口交流史研究会 会報』39号、2018年6月30日。

ヴィシネフスキー ニコライ V(小山内道子訳)「「知取協定」と樺太における戦争の終結」『北方人文研究』12号、2019年3月25日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 鈴木仁 ..... 文化史

【定期刊行物】

鈴木仁「樺太庁長官物語その(14) 第4代長官 岡田文治」『樺連情報』816号、2018年4月1日。  
鈴木仁「樺太庁長官物語その(15) 第5代長官 昌谷彰」『樺連情報』823号、2018年11月1日。  
鈴木仁「樺太郷土会の活動とその影響：新聞・雑誌による郷土研究の取り組み」『北方人文研究』12号、  
2019年3月25日。

■ 中山大将 ..... 移民社会史

【著書】

中山大将『サハリン残留日本人と戦後日本：樺太住民の境界地域史』国際書院、2019年2月29日。

【定期刊行物】

中山大将「樺太のエスニック・マイノリティと農林資源：日本領サハリン島南部多数エスニック社会の農業社会史研究」『北海道・東北史研究』11号、2018年6月30日。  
中山大将、竹野学、木村由美、ブル ジョナサン、パイチャゼ スヴェトラナ「サハリン樺太史研究会第41回例会 樺太の〈戦後〉史研究の到達点と課題」『北海道・東北史研究』11号、2018年6月30日。  
中山大将「台湾と樺太における日本帝国外地農業試験研究機関の比較研究」『日本台湾学会報』20号、2018年7月31日。

■ パイチャゼ スヴェトラナ ..... 教育学

【定期刊行物】

富成絢子、パイチャゼ スヴェトラナ「『置き去り：サハリン残留日本女性たちの60年』(吉武輝子著)にみる民族とジェンダー」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』28号、2019年3月20日。  
パイチャゼ スヴェトラナ「サハリン帰国者の若い世代の自己アイデンティティと言語使用・学習に関する考察（特集 子どもと移民）」『移民研究年報』24号、2018年6月。

■ 藤村建雄 ..... 軍事史

【著書】

藤村建雄『証言・南樺太 最後の十七日間：知られざる本土決戦 悲劇の記憶』潮書房光人社、2018年11月21日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 藤本健太郎 ..... 日ソ外交史

【定期刊行物】

藤本健太郎「1920 年代後半におけるソ連の北サハリン政策:トラスト・サハリンネフチの設立と利権供与」『ロシア史研究』101 号、2018 年 4 月。

■ 麓慎一 ..... 日本史

【定期刊行物】

麓慎一「明治初期のサハリン島問題とパークス」『環日本海研究年報』24 号、2019 年 3 月。

■ ブル ジョナサン ..... 日本近代史

【定期刊行物】

Jonathan Bull, “Karafuto Repatriates and the Work of the Hakodate Regional Repatriation Centre, 1945–50,” *Journal of Contemporary History*, No. 53, 2018-05-15.

ブル ジョナサン(白木沢 旭兎訳)「樺太引揚と函館引揚援護局の役割 1945-50」『北方人文研究』12 号、2019 年 3 月 25 日。

■ 楊素霞(やん・すしゃー) ..... 日本近代史

【著書】

楊素霞『北海道と植民地台湾・樺太との行財政的関係を軸として(1895～1914)』政大出版社、2019 年 3 月。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

参考資料……………非会員による研究成果刊行物

- 【定期刊行物】江連崇「樺太引揚者への調査を通してみる専門職養成大学における歴史教育実践」  
『地域と住民：コミュニティケア教育研究センター年報』第2巻36号、2018年5月31日。
- 【定期刊行物】太田満「サハリン残留・帰国者学習の教材開発：国際理解教育の観点から」『共栄大学  
研究論集』17号、2019年3月31日。
- 【定期刊行物】大谷伸治「『終戦』の日はいつか？：北海道の事例から「8・15終戦」史観を相対化する  
小学校社会科授業」『弘前大学教育学部紀要』120号、2018年10月12日。
- 【定期刊行物】小林茂「日清・日露戦争期の日本の気象観測網の拡大と電信線」『日本地理学会発表  
要旨集』2019年号、2019年3月。
- 【定期刊行物】阪口諒「山本多助筆録アイヌ語樺太方言テキスト(1)：「カラフト・ウベケレ(オプケ  
ニコロ ウペケレ)」『北方人文研究』12号、2019年3月25日。
- 阪口諒、ウジーニン エフゲーニー「陰部に歯のある女性の伝承：サハリンの伝承を中心に」『千葉大  
学ユーラシア言語文化論集』20号、2018年12月25日。
- 【定期刊行物】坂本弘毅「安政4年の佐倉藩蝦夷地調査と奥蝦夷地の実態」『北海道・東北史研究』11  
号、2018年6月30日。
- 【定期刊行物】佐々木史郎「清朝のアムール支配の統治理念とその実像」『北東アジア研究』別冊4  
号、2018年9月。
- 【著書】辻原万規彦、角哲(編集・解説)『戦前期樺太火災保険特殊地図集成：付・樺太庁発行市街図・  
旧版海図ほか』柏書房、2018年7月。
- 【定期刊行物】辻原万規彦、角哲「戦前期における樺太の大縮尺都市地図の概要」『建築歴史・意匠』  
2018年号、2018年7月20日。
- 【定期刊行物】中村和之「骨嵬に王はいたか？」『人文論究』88号、2019年3月。
- 中村和之、三宅俊彦、村串まどか、小林淳哉、ゴルブノーフ セルゲイ V. 「サハリン島で発見された常  
平通寶の成分分析」『北海道立北方民族博物館研究紀要』28号、2019年3月29日。
- 【定期刊行物】中村弘行「樺太における寒天製造の歴史(1)」『小田原短期大学研究紀要』49号、2019  
年3月。
- 【著書】橋本友美『樺太売薬の歴史：松倉家文書による水橋売薬の活動』水橋薬業会、2018年8月22  
日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀  
要、会誌などに掲載された論文など。

## —研究プロジェクト—

(代表者五十音順)

■小川正人……………先住民族史

[最終]小川正人(北海道博物館)「近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置:その歴史的意味に関する基礎研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2016-2018 年度。

■神長英輔…………… 漁業史

[継続]神長英輔(新潟国際情報大学)「近代東北アジア諸地域におけるコンブ漁業の比較研究」JFE21 世紀財団・大学研究助成金・アジア歴史研究助成、2017-2019 年度。

■白木沢旭児……………日本近代史

[継続]白木沢旭児(北海道大学)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」科学研究費補助金・基盤研究(A)、2017-2020 年度。

■中山大将……………農業社会史

[最終]中山大将(京都大学)「境界地域史への地域情報学活用:サハリン島マイクロ歴史情報データベースの構築と応用」科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究、2016-2018 年度。

■藤本健太郎…………… 外交史

[最終]藤本健太郎(京都大学)「戦前期サハリン島における日ソ関係史:開発と外交の相互関係をめぐって」科学研究費補助金・特別研究員奨励費、2017-2018 年度。

■参考資料…………… 非会員による研究プロジェクト

[新規]太田満(共栄大学)「移民学習論の再検討:「残留日本人学習」の教材開発を通して」科学研究費補助金・若手研究、2018-2021 年度。

[継続]竹松良明(大阪学院大学短期大学部)「戦前期の中国・樺太で刊行された日本語図書(文学関係中心)の書目総覧の作成」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2017-2019 年度。

[継続]中村和之(函館工業高等専門学校)「サハリンアイヌの総合的研究:その成立と変貌」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2017-2020 年度。

[最終]日比嘉高(名古屋大学)「書物取次ネットワークと小売書店に関する研究:旧満洲・朝鮮半島・樺太等を中心に」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2015-2018 年度。

\* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

## サハリン・樺太史研究会会則

2015 年 6 月 21 日改正

2011 年 5 月 28 日改正

2009 年 5 月 16 日採択

1. 本研究会はサハリン・樺太史研究会と称する。
2. 本研究会は、サハリン・樺太を対象地域とし、主として歴史分野に関する研究の促進と研究者の交流を目的とする。
3. 本研究会は、その目的を達成するために次の事業をおこなう。
  - (1) 定例研究会(例会)・シンポジウムなどの開催。
  - (2) 共同の研究・調査、およびその成果の公開。
  - (3) サハリンの大学・研究機関との交流、情報交換および共同研究の促進。
  - (4) その他本研究会の目的を達成するために適当な事業。
4. 本研究会は、サハリン・樺太の歴史に関心があり、その目的に賛同し、事業に協力する個人の会員からなる。
5. 新年度最初の例会時に総会を開催する。総会は本研究会の最高議決機関であり、総会の議決は原則として出席会員の過半数によって成立する。
6. 本研究会には次の役員をおく。

世話人(若干名)・会長(1名)・副会長(1名)・事務局長(1名)。
7. 世話人は総会で選出し、世話人の互選により会長・副会長・事務局長を選出する。
8. 会長は本研究会を代表し、会務を統括する。
9. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
10. 本研究会に事務局をおく。事務局長は会長・副会長のもとで本研究会の事務全般を担当する。
11. 役員任期は2年とする。ただし再任はさまたげない。
12. 本会則は2015年6月から発効する。本会則の改正は役員議を経たのち総会の議決による。

---

### サハリン・樺太史研究会役員(2018年度末現在)

2015年6月21日選出

2016年8月26日追加選出(\*)

2017年7月22日追加選出(\*\*)

会長：白木沢旭児

副会長：天野尚樹

事務局長：鈴木仁

世話人：池田裕子(\*\*)、井潤裕、竹野学、兎内勇津流(\*)、中山大将(\*)

=====  
**サハリン樺太史研究会 2018 年度活動報告書**

発行日:2019 年 8 月 31 日

編集者:中山大将

発行者:サハリン樺太史研究会

【公式 HP】 <http://sakhalinkarafutohistory.com/home.html>  
お問い合わせは、上記 HP の問い合わせフォームよりお願いいたします。

=====